第 33 回市民とともに考える救急医療シンポジウム

いざという時、心肺蘇生が命を救う
～誰もが知っておくべき心肺蘇生法～

概　　要

令和 6 年 9 月 14 日午後 2 時から、船橋市勤労市民センターにおいて、「第 33 回市民とともに考える救急医療シンポジウム」を開催しました。

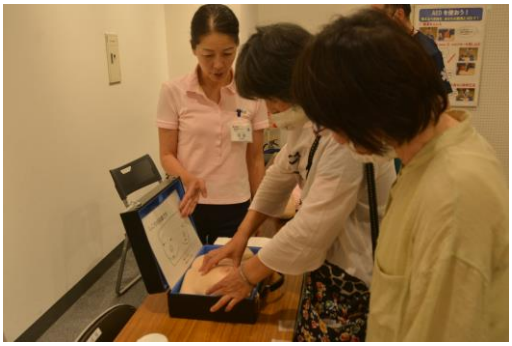
今年のテーマは「いざという時、心肺蘇生が命を救う～誰もが知っておくべき心肺蘇生法～」。198 人が来場し、好評のうちに終了いたしました。

また、同会場内では、船橋市消防局による「救急フェア」も開催いたしました。心肺蘇生法体験コーナーでは、多くの方々にいざという時の対応方法を学んでいただきました。

≪心肺蘇生法体験コーナー（ホール前）≫

≪心肺蘇生法体験コーナー（展示室）≫

≪啓発コーナー≫



≪パネル展示コーナー（展示室）≫

救急医療シンポジウム

（大会会長）	松戸　徹	（船橋市長）
（実行委員会委員長）	鳥海　正明	（船橋市医師会 会長）
（総合司会）	渡邉　千代美	（船橋市赤十字奉仕団 委員長）
（基調講演講師）	貞広　智仁	（日本救急医学会専門医 指導医・日本集中治療医学会専門医・船橋市立医療センター 非常勤医）
（基調講演座長）	木村　友則	（船橋市立医療センター 麻酔科副部長）
（シンポジスト）	菊池　祐一	（船橋市消防局救急課救急指導係 救急救命士）
	境田　康二	（NPO 法人日本 ACLS 協会 理事長）
	都築　弘	（船橋市立医療センター 初代救命救急センター長 ）
（シンポジウム司会者）	土居　良康	（船橋市医師会　副会長）
	髙木　康博	（船橋市医師会　理事）

※敬称略

救急フェア

船橋市消防局

（実行委員会構成団体）

船橋市医師会、千葉県看護協会船橋地区部会、船橋市自治会連合協議会、船橋市 PTA 連合会、船橋市全婦人団体連絡会、船橋市老人クラブ連合会、船橋商工会議所、船橋市赤十字奉仕団、船橋市社会福祉協議会、船橋市消防団、船橋労働基準監督署、船橋市、船橋市消防局、船橋市教育委員会

開 会 セ レ モ ニ ー

総合司会　渡邉　千代美
（船橋市赤十字奉仕団　委員長）

こんにちは。本日はようこそおいでくださいました。

ただいまから、「第 33 回市民とともに考える救急医療シンポジウム」を開催いたします。

私は、当シンポジウムの実行委員会委員であり、本日進行を務めさせていただきます渡邉千代美と申します。どうぞよろしくお願い申し上げます。（拍手）

また、本日の手話通訳と要約筆記は、船橋市福祉サービス公社の皆様にお願いしております。

「市民とともに考える救急医療シンポジウム」は、市民に対する救急医療への意識の高揚、また、心肺蘇生法の普及・啓発を図ることを目的として、平成元年度より開催しているイベントです。このシンポジウムでは、船橋市の救急医療体制についての紹介を行うとともに、それぞれの時節に合った様々なテーマを取り上げて開催しております。

今回のタイトルは、「いざという時、心肺蘇生が命を救う～誰もが知っておくべき心肺蘇生法～」でございます。

心停止の現場に居合わせた人が、救急車到着前に心肺蘇生を実施するか否かで、生存率に 2 倍もの差が生じると言われています。救命活動の現場では、一人一人の行動がとても重要なものとなります。そして、いざというときに正しい行動を選択できるようにするためには、心肺蘇生に関する適切な知識をあらかじめ身につけておくことが必要であります。

そこで、今回の救急医療シンポジウムでは、心肺蘇生法に関する適切な知識や、私たちが暮らすまちの救急体制の現状について、皆様とともに学び、考えてまいりたいと思います。

ここで、まず開会に当たりまして、大会会長であります松戸徹 船橋市長からご挨拶をお願いいたします。

大会会長　松戸　徹（船橋市長）

皆様、こんにちは。

本日は、残暑というよりは真夏かなと思うぐらい大変暑い日でありますけれども、そういった中、このシンポジウムにご出席いただきまして、ありがとうございます。

ただいま、総合司会の渡邉千代美さんからお話があったように、このシンポジウムは平成元年からスタートしております。コロナの間は 3 年間中止を余儀なくされましたが、今年で 33 回目を迎えることができました。

これまで、船橋市の地域医療というのは、今日、実行委員長をしていただいている鳥海医師会長をはじめとして、歴代の医師会の皆様、そして、医療関係の団体の皆様の連携によって築くことができております。特に、船橋市の地域医療の大きな核の一つとなっているドクターカー、24 時間体制で出動時から医師が同乗する日

本で初めてのシステムを構築できましたけれども、こういったものを創出するためにも、本当に大きな役割を果たしていただいております。

本日は、心肺蘇生に造詣の深い先生であります貞広智仁先生に基調講演を、先ほど言ったドクターカーが軌道に乗るまで、船橋の救急医療の基礎を築くためにお力添えをいただいた境田康二先生、都築弘先生のお二人にシンポジストをお願いしています。

船橋市は、間もなく人口が 65 万人になろうとしています。人口規模としては島根県全体とほぼ同じ人口を擁する都市になっています。ただ、人口が多いからこそ、様々な救急医療、また地域医療をしっかりとやっていく必要があります。船橋市の場合、ＡＥＤを 24 時間営業しているコンビニエンスストアに、ほぼ配置しており、それぞれの中学校等、公共施設にも配置しております。昨年は、中学校等のＡＥＤについてはボックスを用意して、学校がやっていない間も使えるような形を取りました。その後、実際にその時間帯にＡＥＤが救急医療のために使われたというケースも起こっております。

今日のシンポジウムを含めて、船橋市としても、医師会、歯科医師会、薬剤師会をはじめとして、多くの皆様の協力を得ながら、しっかりとした命を守る体制をつくっていきますので、今後とも市民の皆様のご理解、ご協力をお願い申し上げて、ご挨拶とさせていただきます。今後ともよろしくお願いいたします。

どうもありがとうございます。（拍手）

総合司会　渡邉　千代美

ありがとうございました。

次に、今回の救急医療シンポジウムの実行委員会実行委員長であります鳥海正明 船橋市医師会 会長からご挨拶をお願い申し上げます。

実行委員長　鳥海　正明（船橋市医師会　会長）

皆様、こんにちは。挨拶の一言一言に心がこもっていないと評判の鳥海でございます。本日は、命の危険を感じる暑さの中、命を守る研究会にご参加いただきまして、ありがとうございます。

船橋市は、今日ご出演いただく境田先生をはじめ、ドクターカーも充実しております。なかなかぽっくりは逝きにくい地域でございますので、我々町医者は、救急車を呼ぶ機会が少なくなるような日頃のケアをしたいと思っています。

また、今日、別の場所で実践的な心肺蘇生をやってくれています船橋の救急救命士の皆さんも非常に優秀でありますので、皆様はとてもいいところに住んでいらっしゃると思うのですが、今日ご来場いただいた方たちの年齢層を見ると、もっと若い方を連れてくることがとても大事です。次回はお子さんやお孫さんも連れ立って覚えさせれば、皆さんも急には死ななくなります。

今、急に死んでしまうと、不都合なことがたくさんあります。私なんかは、スマホやパソコンから何が出てくるか分かりませんので、やはり計画的に死ななければいけないなと思っているのですが、何が起きるか分かりません。

ただ、そういった危険な状態というのは、圧倒的に家の近くや家の中が多いですから、次はご家族も一緒に連れてくると、皆さん、いよいよもって、そう簡単に死ななくなりますので、そういった機会となる勉強会になればいいなと

思います。
　今日は、皆様、いい勉強をしていってください。よろしくお願いいたします。（拍手）

総合司会　渡邉　千代美
　ありがとうございました。
　それでは、市長、委員長、ご降壇ください。（拍手）

　これより、ステージにおきまして、基調講演の部の準備を行います。この間を利用いたしまして、本シンポジウムの実行委員をご紹介させていただきます。
　それでは、実行委員の皆さん、ご起立ください。

　本シンポジウムは、船橋市救急医療シンポジウム実行委員会により企画・運営が行われております。こちらは、本日のプログラムに掲載しております実行委員会構成団体の皆様でございます。どうぞよろしくお願いいたします。（拍手）